

# トマトの安定生産を目指して！！

## 東近江農業農村振興事務所農産普及課

### 【普及活動のねらい・対象】

東近江管内では、近年トマトを栽培する新規就農者が増えています。しかし、これら新規就農者は組織化されておらず、情報交換や技術研鑽を行う場がありませんでした。そこで、栽培経験の浅いトマト生産者7名（少量土壌培地耕6名、水耕1名）を対象に、トマトの生理生態に関する基礎的な知識や、栽培管理・病害虫防除などの基本技術を習得するための研修会を定期的開催し、技術の習得支援を行いました。

### 【普及活動の成果】

生産者同士で生育状況を確認し情報交換を行えるように、研修会は座学と現地見学を組み合わせて合計6回行いました。研修会の開催経過と内容は以下の表の通りです。

開催日	出席者数	内容
平成22年 4月30日	7名	トマトの生理生態について説明し、出席者の栽培状況を写真で説明した。販売単価の情報交換も行われた。
平成22年 6月1日	7名	現地でトマト果実の生理生態を説明するとともに、出席者4名のほ場を巡回し、お互いの生育を把握された。
平成22年 7月6日	3名	旧八日市地域のほ場で播種作業を実習し、育苗管理について理解を深められた。
平成22年 9月8日	6名	抑制トマトの栽培管理と病害虫防除について説明した後、セル苗を定植し栽培している生産者のほ場を見学した。生理障害や病害虫は共通して発生がみられるため、出席者は熱心に質問された。
平成22年 10月14日	6名	抑制トマトの生育経過や栽培管理を確認した後、旧永源寺地域の2ヶ所のほ場を見学した。夏期の高温・強光により裂果が多かったことから、裂果対策について質問が多かった。
平成23年 1月21日	11名	抑制トマトにおける高温対策や半促成トマトの温度管理について説明した。新たに4名の新規栽培者が出席された。

研修会を通してトマトの基本知識を習得され、今年度から栽培を始めた就農者も順調に収穫することができました。研修会は、生産者同士が交流するいい機会となり、お互いの生育状況を確認することによって、自身の栽培管理を見直すことにもつながりました。また、研修会以外でも、普段からお互いのハウスを行き来し、積極的に情報交換されるようになりました。

次年度も引き続き、栽培管理に対する支援を行い、生産および経営の安定化を図っていきます。

